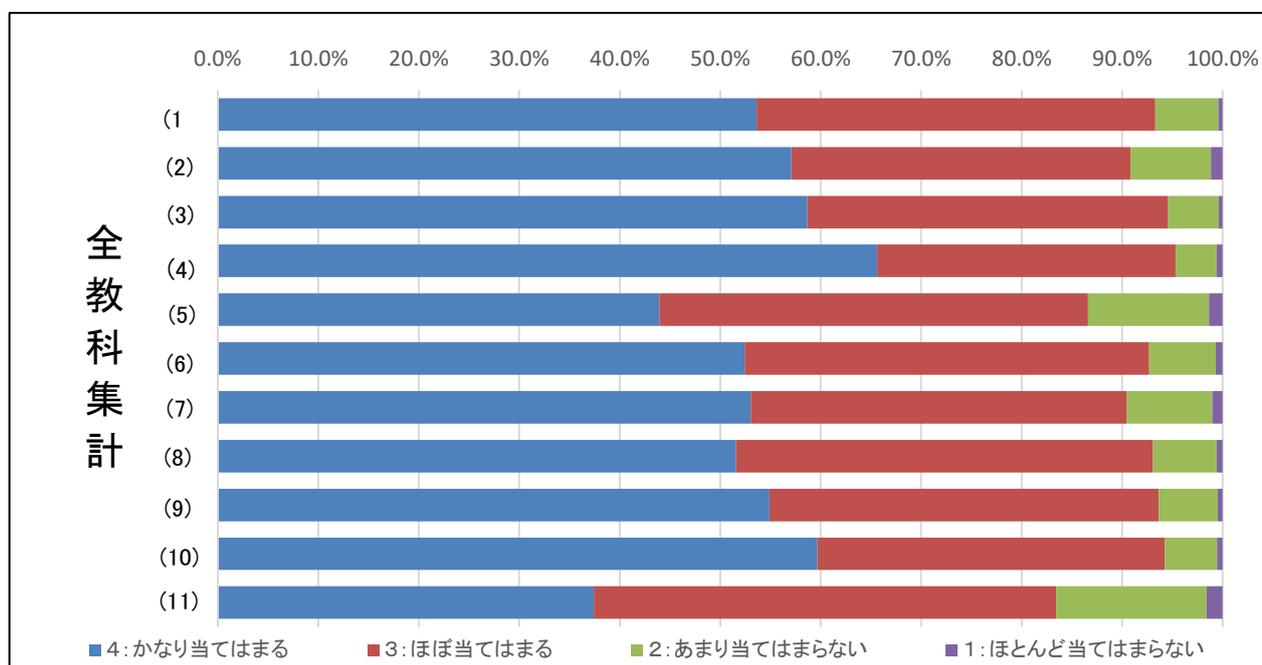


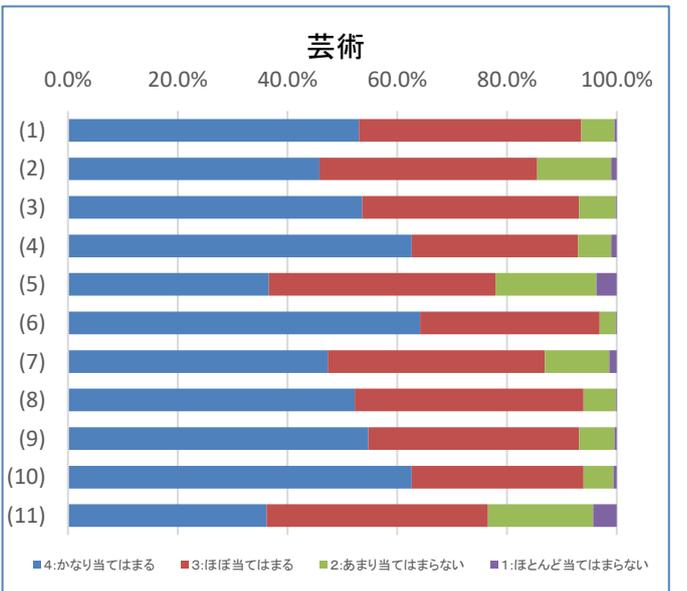
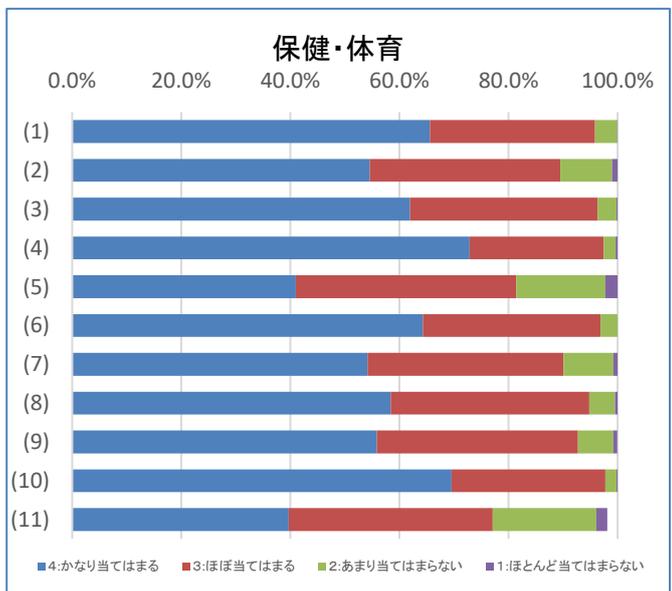
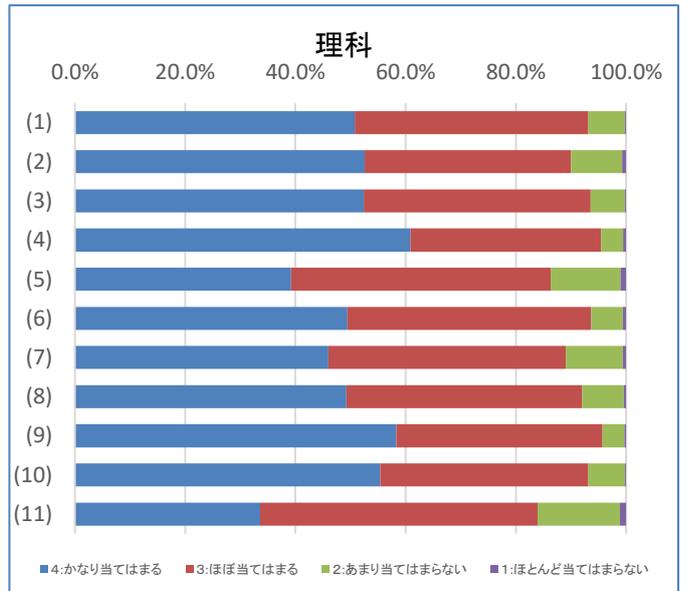
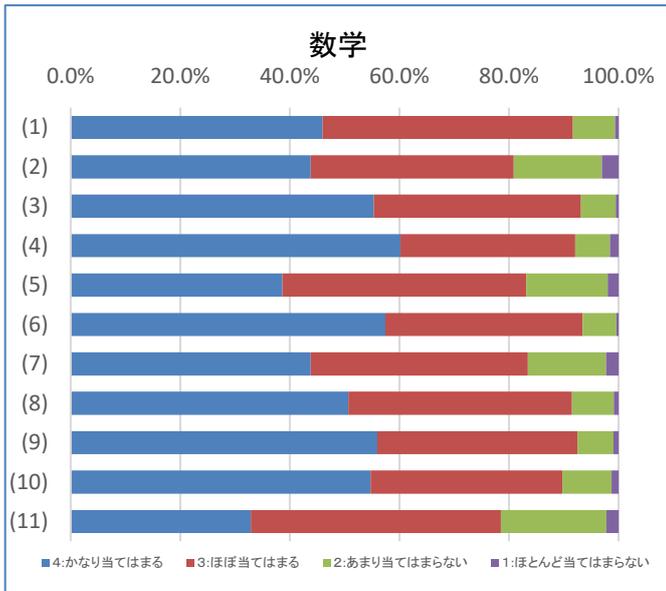
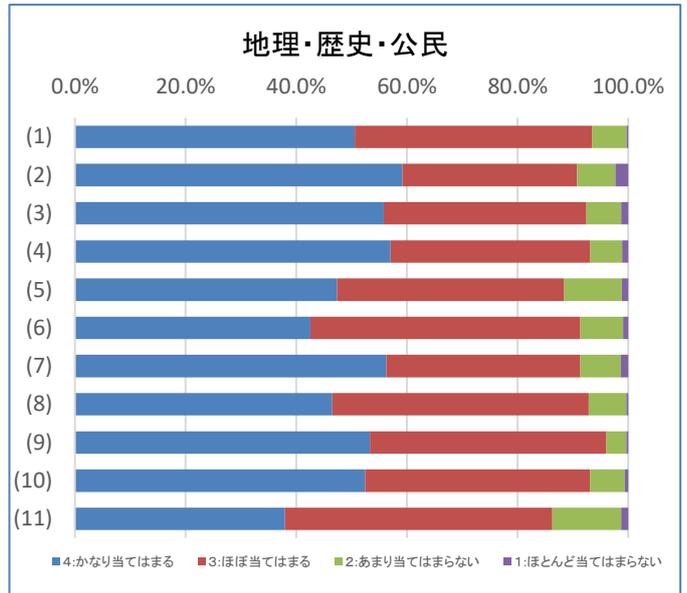
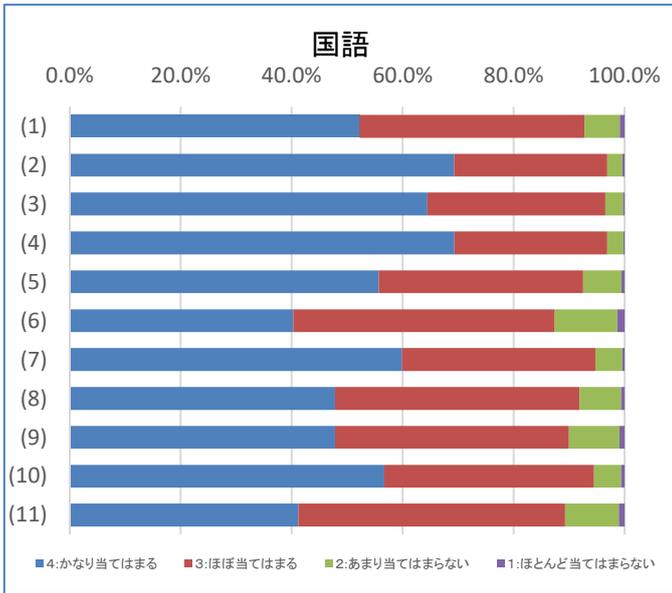
## 令和5年度 第1回「生徒による授業評価」集計結果一覧 (令和5年6月21～7月3日実施)

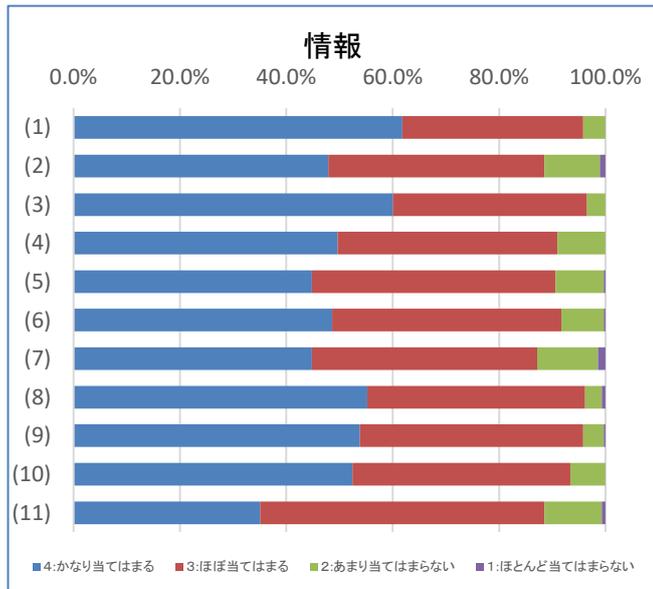
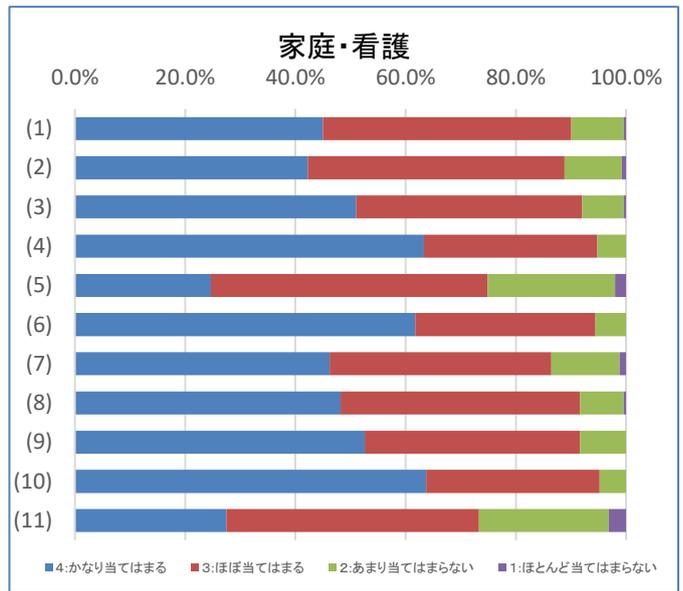
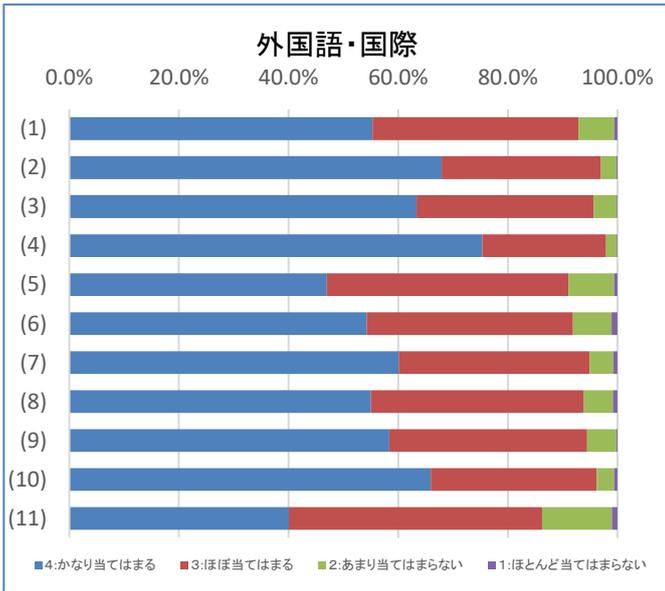
大項目	小項目	
授業の在り方について	(1)	毎時間の授業や単元(内容のまとめ)のはじめに学習のねらいを示したり、毎時間の授業や単元の学習のあとに学習したことを振り返ったりする機会がある。
	(2)	単元(内容のまとめ)の学習の中で、他者の考えを知り、自らの考えを広げ深める機会がある。
	(3)	単元(内容のまとめ)の学習の中で、課題について自分の考えをまとめたり、解決方法について考える場面がある。
	(4)	主体的・協働的に課題を解決する場面がある。
	(5)	批判的・論理的に思考し、表現する学習活動がある。
学習の状況について	(6)	授業の中で身に付いたことや、できるようになったことを実感することができた。
	(7)	他者の考えを知ることにより、新たな考え方を知るなど、自らの考えをができた。
	(8)	授業で得た知識をもとに、自分の考えをまとめたり、課題の解決方法を考えたりすることができた。
	(9)	授業で学んだことをそれまでに学んだことと関連付けて理解することができた。
	(10)	主体的・協働的に課題を解決に取り組むことができた。
	(11)	批判的・論理的に思考し、表現することができた。

評価について

各授業内にて記名式で行い、「4:かなり当てはまる、3:ほぼ当てはまる、2:あまり当てはまらない、1:ほとんど当てはまらない」の4段階で評価する。









令和5年度 第1回「生徒による授業評価」教科検討事項

教科		授業評価分析結果・課題点	授業改善に向けての具体的取組み
国語		<ul style="list-style-type: none"> <li>項目4「主体的・協働的に課題を解決する場面がある。」について、「あまり当てはまらない」以下に回答した数は最大で7%と、多くの科目で主体的・協働的な活動を意識した授業展開になっている。</li> <li>項目5「批判的・論理的に思考し、表現する学習活動がある。」について、「あまり当てはまらない」が最大12%とやや課題になっている科目もある。</li> <li>授業の展開としては「主体的・協働的な学び」や「批判的・論理的に思考し、表現する活動」が意識されている一方で、生徒の実感に反映されていないと見られる科目もある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も継続して「主体的・協働的に課題を解決する」活動や「批判的・論理的に思考し、表現する学習活動」を行っていく。</li> <li>積極的に相互の授業を見学し、自身の授業に活かせる点や自身の授業の課題点を発見していく。</li> <li>生徒自身が「主体的・協働的に課題を解決に取組むことができた。」と感じたり「批判的・論理的に思考し、表現することができた。」と感じたりすることができるような授業づくりを考え、実践していく。</li> </ul>
地理 歴史 公民		<ul style="list-style-type: none"> <li>個々の生徒の本音の部分が知ることができた。</li> <li>生徒が満足できる授業を展開しようとすると、教科書の内容を終わらせることのギャップがある。</li> <li>表現活動を行うにあたって、基礎的な知識が必要なので、どうしても授業進路が遅くなっていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>小テストや振り返りシートの有効利用し、取組内容や目的を生徒と共有し、コミュニケーションをとる。</li> <li>基礎科目の担当者と発展科目の担当者間でコミュニケーションをとり、単元や範囲を共有することが重要である。</li> <li>中学の既習範囲や前年度の単元と指導の評価を参考にし、授業進路を担当者間で意識して授業を展開する。</li> </ul>
数学		<ul style="list-style-type: none"> <li>他の回答と比較して、(5)批判的・論理的に思考し、表現する学習活動がある。(11)批判的・論理的に思考し、表現することができた。の2項目に関する評価が低い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>時間を取り、自ら別の解法を考えさせる。</li> <li>共通テストでも出題されている会話形式のものを取り入れていくことによって、批判的・論理的な思考力を育てていく。</li> <li>生徒自ら問題を作って、他の生徒に解かせてみる。自分で問題を作ることによって、問題を解くだけのときよりも、その概念に対してより深い理解が得られる。</li> </ul>
理科		<ul style="list-style-type: none"> <li>実験や演示など、視覚的にわかりやすく示すことと、授業への意欲の相関が強くなっている。※昔は口頭での説明でも十分に理解できる生徒が多かったが、いまは視覚的にわかりやすく演示しないと理解できない生徒が増えている印象。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教材を生徒参加型に作り替えていく</li> </ul>
保健 体育		<ul style="list-style-type: none"> <li>体育は「主体的・協働的に課題を解決する場面がある。」という項目の評価が高かった。</li> <li>体育は「単元(内容のまとまり)の学習の中で、他者の考えを知り、自らの考えを広げ深める機会がある。」という項目が低い傾向にある。</li> <li>体育は批判的・論理的に思考し、表現する学習活動が不足している。</li> <li>保健は教科書の内容と日常生活を関連させることで生徒の興味関心をより高めることができたり、思考する機会も多いと思われる。</li> <li>保健は前期からの引き続きの課題である、「批判的・論理的思考を促すための活動」について教科で工夫していけると尚よい。</li> <li>スポーツ心理は満足度は概ね高い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>継続してペアワークやグループワークなどを取り入れ、互いに課題を発見したり、アドバイス等を行ったり課題を解決する機会を作っていく。</li> <li>主体的・協働的に課題を解決する場面の設定は行っているが、それによって他者の考えから自らの考えを広げ深めるというところまで繋がっていない。ペアワークやグループワークを行う際に、発問等を工夫していく必要がある。</li> <li>ICTを活用し、試合動画の分析をする活動を取り入れる等、批判的・論理的な思考を育み、グループ内での発表やグループごとの発表をするなどして思考したことを表現する機会を設ける。</li> <li>今後も教科書の内容と日常生活を関連させることで、批判的・論理的に思考したり、思考したことをプリントにまとめたり、発表したりする機会を設ける。</li> <li>より批判的・論理的思考を促すために教科内で情報を共有するなど、意見交換を行う。</li> <li>スポーツにかかわる課題を心理的側面から明らかにしてスポーツを実践できるように、科学的知識を育成していく。教科会で授業の内容について話し合い、意見交換を行う。</li> </ul>
芸術	音楽	<ul style="list-style-type: none"> <li>満足度は概ね高い。</li> <li>題材ごとの目標に対する意識がやや低い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き生徒が主体的に授業に取り組める工夫を実践する。</li> <li>授業の最初に題材の目標についての説明をより明確に行う。</li> </ul>
	美術 工芸 書道	<ul style="list-style-type: none"> <li>批判的・論理的な思考表現について、アプローチの仕方を検討する必要がある。</li> <li>全体的な満足度は概ね高い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>制作途中や鑑賞活動の場面で、言語活動を積極的に取り入れる。</li> <li>生徒の創作意欲が高まるような授業づくりに取り組む。</li> </ul>
外国語 国際		<ul style="list-style-type: none"> <li>満足度は概ね高いが、(11)の項目の評価はやや低かった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業を受ける前と後で生徒がどう変わったか、教員が理解する。</li> </ul>
家庭 看護		<ul style="list-style-type: none"> <li>ほぼ予想通りの結果に落ち着き、教科の特質上、(6)の「授業の中で身についたことや、できるようになったことを実感することができた」(10)の主体的・協働的に課題解決に取り組むことができたについては、特に満足度が高かった。</li> <li>一番改善が必要な項目は、(11)の「批判的・論理的に思考し、表現する学習活動がある」についてであった。</li> <li>特に実習科目において、(1)のねらいや振り返り、(2)(3)の自分や他者の考えや解決方法を考えるなどの満足度が低めであった。</li> <li>(8)の「授業で得た知識をもとに、まとめたり解決方法を考えたりする」の項目でも、もう少し改善点があるのではと考えた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループワークに加え、ペアワークをしてから発表をさせ、jamボードで班ごとに感想を共有する、など状況に応じて少しずつバリエーションを増やしている。</li> <li>班ごとの発表を、ただただでなく、事後に、どの班がよかったかのアンケートフォームを送り、回答させることで客観的に評価できるようにしたり、説明の際になるべく資料集やデータを用い論理的に考える機会を増やすようにしている。</li> <li>例えばファッション造形基礎では「半年で浴衣を作る」など、毎回自分のペースで実習を進める形ならざるを得ない為、半期ごとや区切りに、自分や友達の進行状況を確認し合い、自分のペース配分や改善点を見直す機会を設けるとより良いと思うが、時間がない為、浴衣の実習時間を増やす事も今後に向けて検討していきたいと考えている。</li> <li>例えば高齢者の分野で、はプリント学習の後に「50年後の日本がどうなっているか」をグループで考え、スライドを作り、90分の中でまとめて発表させたり、「結婚率が下がっている理由」「男性の方が平均寿命が低い理由」などを考えさせ、班で話し合い、班ごとのjamボードで結果を共有したりしている。</li> </ul>
情報		<ul style="list-style-type: none"> <li>概ね満足度が高くほぼすべての項目で90%の生徒が3、4を選択している。</li> <li>1、2を選択している生徒が10%ほどいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>3を選んでいる生徒に4を選んでもらえるように、主体的・論理的・協働的な活動を増やしていく。</li> <li>情報とはどのような科目なのか、どのような活動を行っているのか等生徒にわかりやすいアプローチができるようにしていく。</li> </ul>
舞台 芸術		<ul style="list-style-type: none"> <li>満足度はおおむね高い。</li> <li>実技科目で、「批判的・論理的に思考し、表現することができた。」の評価が低い傾向がある。</li> <li>伝統芸能は「型を学ぶ」ことが重視されるため、評価項目では測れない面がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>非常勤講師の授業も含めて常に授業公開し、意見交換を行う。</li> <li>課題の設定や声掛けを工夫し、生徒が意識的に論理的思考を働かせられるようにする。</li> <li>伝統芸能ならではの考え方に触れることで生徒自身の多角的視点を育て、それが批判的・論理的に思考することにつながるようにする。</li> </ul>